

第 22 回 ワークショップ検討タスク 議事録

1. 開催日時 : 2023 年 2 月 9 日 (木) 10:00~11:00
2. 開催場所 : Web 会議
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
出席委員: 三浦主査(中部電力), 宇奈手(三菱重工業), 奥平(日立 GE ニュークリア・エンジニア),
杉村(日立 GE ニュークリア・エンジニア), 西山(東芝エネルギーシステムズ), 仲村(東京電力 HD),
奈良(北海道電力), 西田(東京電力 HD), 秋吉(原子力安全推進協会),
(計 9 名)
代理出席者: なし (計 0 名)
欠席委員: 堺(九州電力), 中條(中央大学), 鈴木^哲(中電シーティーアイ) (計 3 名)
常時参加者: なし (計 0 名)
説明者: なし (計 0 名)
オブザーバ: なし (計 0 名)
事務局: 葛西, 末光, 事業推進部 直井, 斉藤 (日本電気協会) (計 4 名)
4. 配付資料
資料 No.22(1)-1 原子力規格委員会 品質保証分科会 ワークショップ検討タスク
委員名簿
資料 No.22(1)-2 原子力規格委員会 品質保証分科会 ワークショップ検討タスク
委員名 (出欠)
資料 No.22(2) 第 21 回 ワークショップ検討 タスク 議事録 (案)
資料 No.22(3) 第 13 回ワークショップの日程について
資料 No.22(4) JEAC4111 ワークショップ「JEAC4111-2021 の活用の現状～効果, 課題と解決の方向性～」の開催について
資料 No.22(4)-参考 ワークショップ参加人数の推移
資料 No.22(5) 第 13 回 JEAC4111 ワークショップ準備スケジュール
5. 議 事
事務局より, 本タスクにて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後, 議事が進められた。

(1) 代理者承認, 常時参加者, 説明者, オブザーバの承認, 定足数確認, 配付資料の確認等 他
事務局より, 出席数は 9 名の出席であり, タスクグループ規約第 9 条 (決議) 第 1 項で必

要な決議条件（委員総数(12名)の3分の2以上の出席）を満たしていることが確認された。
その後、配布資料の確認があった。

(2) 前回議事録確認

事務局より資料 No.22(2)に基づき、前回議事録の紹介があり、正式議事録とすることについてタスクグループ規約第9条（決議）に基づき決議の結果、特にコメントはなく、5分の4以上の賛成で承認された。

(3) 前回（第21回）タスクからの進捗、日程について

三浦主査及び事務局より、資料 No.22(3)に基づき、前回（第21回）タスクからの進捗、日程について説明があった。

主な説明は下記のとおり。

- ・事務局だが、前回のタスクで「当日オンデマンド配信は見られないのか」という質問があった。その後、委託先と確認・調整し、ライブ配信は Zoom ウェビナーで行う予定で、オンデマンド配信はラーニングボックスというそれぞれ違ったシステムを使用するので、日本電気協会に対する申し込みは1つであるが、ライブ配信中もオンデマンド配信は見られる。
- ・リスク情報の活用については、電力事業者からということであったが、これについて四国電力殿から了承を得ている。
- ・もう1つリスク情報の活用の中で変更管理についてはメーカーで話し合いの結果、今回は東芝エネルギーシステムズ殿で受けていただくこととなった。なお、次回は三菱重工業殿にて実施いただくことになっている。
- ・パネルディスカッションへの参加について、原子力規制庁に声がけしたが、JEAC4111 適用課題検討タスクで課題を検討している状況であり受けられないとのことであった。
- ・中立的な立場からのパネラー参加をお願いしており、その方の予定を踏まえて開催日を5月19日にしたいと考えている。
- ・ワークショップ開催を5月19日とすることについて、他のパネラーへの連絡は行っているか。

→ 他のパネラーには連絡済みである。

主なご意見・コメントは下記のとおり

- ・日程は5月19日（金）ということで決めたい。
 - ・メーカー側の変更管理について確認しておくことはあるか。
- この題目に対して、RIDM としての変更管理について、当社の安全担当と議論しているが、変更管理についてどのようなイメージで説明をすれば良いのかというのがなかなか定まらない状況にあり、アドバイスを頂ければと思う。
- ・メーカーでは、変更管理はある意味当然のこととして、きっちり実施されているが故に、あら

ためて何について話せば良いのかというのは、ある意味で無理からぬことかと思う。一方で電力事業者の立場から見ると、メーカから提出された資料を承認するという図面の管理であるとか、現場で実際に行われる工事の管理などを、事業者が主体に実施することになるが、プラント設備が必ずしも全て同一のメーカによるものでないとか、複雑な状況がある中で、間違いの無いよう、図面と現場の管理を変更管理に基づいて実施していくというのは課題であると思っている。メーカでも純粋なドキュメントの管理もあるだろうし、施工する立場で図面と現物を整合させるという管理もあると思う。そういう意味で、設計の管理と施工の管理の実施にあたって、変更管理として努力している点などを聞けると事業者としては、大いに参考になると思う。

→ メーカとして設計管理及び施工管理についての変更管理ということであるが、RIDM を考慮してというのが考えすぎているのだと理解した。日頃実施しているリスクの変更管理という点ではメーカでも実施しており、そういった観点で設計管理及び施工管理について考えていく。

(4) 第 13 回 JEAC4111 ワークショップ開催案内について（審議）

事務局より、資料 No.22(4)及び資料 No.22(4)-参考に基づき、第 13 回 JEAC4111 ワークショップ開催案内について説明があった。

第 13 回 JEAC4111 ワークショップ開催案内について、今回の意見を反映したもので、品質保証分科会に報告することについて、決議を行い、その結果承認された。

主な説明は下記のとおり。

- ・ 資料 No.22(4)-参考はこれまでの JEAC4111 ワークショップの参加人数であり、そこから推測すると今回のワークショップは 60 人から 70 人程度の参加者と考ええる。
- ・ 基本的には前回の 2018 年の流れを踏襲した形になっている。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 本件については 2 月 13 日に分科会で報告したいと思うので、意見をお願いします。
- ・ 資料 No.22(4)の冒頭で開催しますとあるが、その下の文で、今回で第 13 回を迎えることとなりましたという部分は、上の方に入れた方が良いか考える。迎えることになりましたではなく、第 13 回と言い切ったほうが良い。

→ 第 13 回 JEAC4111 ワークショップというタイトルにする。

- ・ 開始時間が 9 時 10 分というのは時間的に早いという気がする。

→ 事務局だが、前回は 10 時から 17 時 30 分であり、RIDM の講演を下にして、1 時間遅らせることも可能であると思う。

- ・ 確かに、9 時 10 分というのは早いと思うが、事前配信は案内の方で繰り返し出ているので、

午前の部の講演については極力事前配信で確認頂き、午後のパネルディスカッションを生
で見て欲しいといったところを示していく。プログラムとしては講演の 2 と 3 がセットの
方が良いと思うので、時間帯についてはこのままで良い。

- ・ 本件について決議を実施し、品質保証分科会に報告したい。

○ 特に異論がなかったので、今回の意見を取り入れたワークショップ開催案内を品質保証分
科会に報告するかについて、タスクグループ規約第 9 条（決議）に基づき、決議を行い、そ
の結果特にコメントはなく、5 分の 4 以上の賛成で承認された。

(5) 第 13 回 JEAC4111 ワークショップ準備スケジュールについて

事務局より、資料 No.22(5)に基づき、第 13 回 JEAC4111 ワークショップ準備スケジュー
ルについて説明があった。

主な説明は下記のとおり。

- ・ 事前配信については 5 月 10 日に実施する予定であり、5 月 19 日に向けての準備というよ
りは、5 月 10 日に対して準備をしていく必要がある。
- ・ 4 講演の内の 3 講演は、外部の方なので、スケジュールを送り、資料作成をお願いすること
になる。事前撮影なので、実務コースの撮影の際は日本電気協会の会議室に来て頂き撮影し
たが、用語の言い間違い等あり、もう一度講師の方に来て頂くのは申し訳ないので、音声だ
けを録音し直し差し替え等を実施したが、環境と設備が変わるので、差し替えをしたという
のが出てしまった。これを防ぐには最初から遠隔で編集することになる。また、事前のレビ
ュー会を実施するというのであれば、皆さんに日本電気協会の会議室にお集まりいただ
き、撮影等をしているのを見てもらいつつ、模擬討論を実施し、編集をして終わるような実
施方法もある。そのように、一気に実施してもらうか、長い期間かけて編集をするという 2
パターンもあるので、各講師の方と相談し決めていきたいと思う。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 主査の意見から言うと、講演者も他の講演者がどのような講演をするかということを把握し
た上で、自分の話をしたいと思うので、レビュー会という形が良いと思う。其々の人がどう
いう講演をするのかという意思疎通が出来る様な場が必要と考えるが、講演者の意見を聞
いた上で実施いただくことで良いと思う。
- 資料は 2 月から 3 月ぐらいに作成して頂き、出来上がったものを、講演者、パネラー、本タ
スクに共有する。
- ・ 原子力規格委員会のシンポジウムは無料であるが、一昨年の配信が初めてのオンラインの
シンポジウムであったので、通信トラブルがない様に外部に委託し、見る側の通信トラブル
等も想定し、収録動画は 1 週間程度配信した。去年は動画は収録し、通信トラブル等による

事後配信については、もしあれば対応するという受け身対応とすることにした結果、配信は不要だった。今回、確認したいのは 4111 ワークショップは有料なので、外部委託し配信トラブルは少ないとは思いますが、受講者の方の通信環境や、当日受講することを予定していた方が、業務の都合で受講できなかった場合などを想定すると、事後 1 週間程度は受講出来るようにしておきたいと考える。

- ・ 有料配信なので、1 週間事後配信するという点については賛成である。編集するしないについては、編集しない方が良いかと思うが、間違ったことを発言したとか、発言内容が適切でなかったということが、もしかしたらあるかもしれないので、修正したいということはあるかと思う。
 - ・ 他のセミナーを見ると、話していることと字幕が異なることがある。そういうやり方もあるかと思った。そこはパネリストと議論して決めれば良い。基本は動画の事後配信は実施し、編集は必要に応じてというイメージである。
 - ・ 事務局だが、先ほどの後日配信について開催案内には書ききれなかったが、その辺はパンフレットや、募集するホームページ等で記載していく。
 - ・ その他、アンケート案も作成し、内容が良いか本タスクで確認した方が良いかもしれないが、その辺は主査と事務局に任せて頂けるのであれば、あえてタスクを開催する必要はないのかと思っている。ワークショップ終了後にそのアンケートをまとめて、タスク内に報告し、品質保証分科会にどう報告するのかということを議論していきたいと考えている。
- アンケートに関しては今の説明の通りで良いと考える。
- ・ このタスクの役割として、こういうプログラムを決めて、後は講演者をお願いするのであるが、資料の中にレビュー会を実施するのかということがあるが、その点にこのタスクとしてどの程度係わるのか。
- 資料は、講師だけではなく委員も含めて全体でレビューしている。講師には、外部の方もおられるが、タスクにも、資料を共有し、コメント等を頂くことになると思う。それについては、会議を開いてとか言うのではなく、メールベースで進める。
- ・ ワークショップの方々については無料招待となると思う。
 - ・ タスクとして実施しないといけないうのは PDCA の内の CA の部分であり、そういったところをきっちり実施し、結果がこうであるので次回ワークショップではこういうことをしていった方が良いということを、しっかりやっていくということが重要であると思う。
 - ・ 事務局だが、来年度どうするかということで終わりではなく、再来年度としてどうするかについては PDCA の P の部分も今後は出てくるかと思う。2 月 13 日には開催案内を報告し、原子力学会にも関係することもあるかもしれないので、今後については原子力規格委員会には案内していくのかと思う。
 - ・ 案内についてはそれで良いかと思う。

(6) その他

- ・ 特になし。

以 上